

教科等研究会（小・中学校書写部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

書くことに意欲と喜びが持てる書写指導の在り方
～自ら気づき、高め、楽しんで日常生活に役立てる実践を求めて～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6 / 19	13 名	矢部小	8 / 3	御船小	講話及び 実技研修 倉橋宏明先生	11 / 2	嘉島西小	事前研 狩野茜教諭 (嘉島西小)	11 / 16	嘉島西小	授業研及び 実践報告会 狩野茜教諭 (嘉島西小) (中止)

3 研究の概要

(1) 研究の内容

昨年度までの研究をさらに進めていくために、今年度も引き続き同じテーマとし、サブテーマを日常生活につなげるものとした。

授業において、単元のゴールを明確化し、児童生徒とゴールやゴールまでの授業の構想を共有することで、児童生徒は1時間1時間の課題を自ら考え、自分の文字を上達させるためのポイントをつかんでいく。そこで味わう達成感により、それぞれが自分の書いた文字に自信が持てるようになると考える（「分かる・できる」）。そして、得た自信と文字に対する知識・理解が日常の書字にも生かされ、「書くことに意欲が持てる」ことにつながっていくと考える（「楽しい」）。また、相手意識持たせたり、相互評価をしたりすることで、「書く喜び」が感じられると考える（「喜び」）。

「自ら気づき、高め」とは、児童生徒が試書→練習→清書→評価という学習活動の中で、試書と手本の文字を比較し、学習課題を達成するためにはどのような改善が必要かを自ら考えるとともに、自分自身の課題も意識して練習し、より良い文字となるような作品作りに取り組むことと考える。「楽しんで日常生活に役立てる」とは、書写の学習で学んだことを自分のものとして、各教科の学習や生活の様々な場面（模造紙へのまとめや手紙、書き初め等）だけでなく、日々のあらゆる場面で意識しながら積極的に生かすことで、楽しんで日常生活に役立てる態度を育成することができると考える。

本年度の実技研修は、学んだ事を即実践できるよう、また、授業での悩みを解決できるものにしたと考えた。そこで、書写の授業でたくさんのアイデアをお持ちの元熊本市校長倉橋宏明先生を講師としてお招きし、模擬授業と講話をしていただいた。

研究授業では、例年同様小学校と中学校が毎年交互に担当し、相互の立場から意見交換する形で研究を進めている。本年度は、研究授業を実施することはできなかったが、事前研究会で、それぞれの校種の立場から、小学校と中学校の授業の繋がりを考え、議論した。実際の授業の様子を共有することで、小・中学校の書写授業の活動の工夫や指導法を学び合うことができると考える。

(2) 成果と課題

実技研修では、元熊本市校長である倉橋宏明先生を講師としてお招きし、部会員が児童・生徒役として、模擬授業をしていただいた。

倉橋先生からの講話の中で、児童生徒らができたと実感させるためには、文字をしっかり見ることが大事ということを知った。文字をしっかり見るために、手本をよく観察し、自分の字と見比べ、字を分解し、パズルのように組み立て、少し違った角度や位置に違和感を持たせることが大事ということを経験することができた。字の違和感に気付かせることで、注意すべきポイントが明確になり、短時間で字の上達が見られた部会員もいた。また、透明シート（B4版のファイル）を活用し、なぞり書きを行った。なぞり書きをさせることで、自分で字を見比べることができ、次何に気を付けるべきか考えることができた。



参加した部会員からは、次のような感想が寄せられた。

- ・ポイントを掴ませるための指導法が分かり、自分でも1枚目と5枚目の上達ぶりが感じられた。ぜひ、この気持ちを子供たちにも感じて欲しいと思った。
- ・透明シートを使って自己批評することで、子供たち自ら進んで練習に取り組み、力を付けてい

くことができると思った。

- ・今まで書写の授業に自信がなく、指導書通りの授業を行ってきた。夏休みに準備をして、2学期から早速取り組んでいきたい。
- ・1時間の授業のように模擬授業を行っていただけたので、とても分かりやすかった。生徒に気付かせる仕掛けが必要だと実感した。

自分たちの授業を振り返り、2学期以降の授業に活用したいという意欲が高まる有意義な研修となった。



4 実践事例

(1) 授業の概要

※研究授業は実施できなかったため、事前研究会で検討した内容を記す。

《事前研究会で協議した内容》

●「きれいに書けた＝楽しい」を実感させる授業づくり

- ・字の外形に注目させるためにトレーシングペーパーを用いて、自分が書いた字と重ね合わせて確認させたい。(授業者の思い)
- ・トレーシングペーパーに外形を印刷できるのか。また、もっと有効な準備の方法はないか。
- ・ここでは書き順を重要視すべきか。中学校では行書体になり、書き順が変わってくる。
- ・既習した漢字を用いることで、字を丁寧に書こうとする意欲を高めたい。また、外形に子供たちが名前を付けることにより、今後も外形に気を付けて書くことを意識させたい。

(2) 学習構想案

第2学年 国語科書写 学習構想案

日時 令和5年11月16日(木) 第5校時

場所 2年3組教室

指導者 教諭 狩野 茜

1 単元構想

単元名	文字の形		
単元の目標	文字の外形を理解し、正しく整えて書くことができる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○文字の外形を理解している。 ○文字の外形を正しく整えて書いている。	○文字の外形に注意して、ほかの文字にどのように生かすか考えている。	○学習したことを生かして書いた文字を見直し、文字の外形に気をつけて進んで書こうとしている。
単元終了時の児童の姿			
文字の外形を理解し、漢字を生活の中で書くときに、正しく整えて書くことができる児童			
単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
文字の外形に注意して、形を整えて書こう。		文字の外形を理解し、意識して書くことを通して、字形が整った字を書く意識を高めている。	
指導計画と評価計画(2時間取扱い 本時1/2)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○文字例を比べて、整っている文字と整っていない文字の外形について考える。 ○外形を考えて書くと字形が整うことを理解する。	【知①】(ワークシート) ○文字例の比較を通して、文字の外形を理解している。 【主】(ノート) ○学習したことを生かして書いた文字を見直している。
二	1	○六種類の文字の外形を確認する。 ○教科書P27の6つの文字について、文字の周りを線で囲んで外形を確かめてから書く。 ○文字の外形を理解して書くことができたか、対話しながら評価する。	★【知②】(ノート) ○文字の外形を正しく整えて書いている。 ★【思】(ノート) ○文字の外形に注意して、他の文字にどのように生かすか考えている。 ★【主】(ノート・発言) ○学習したことを生かして文字の外形に気をつけて進んで書こうとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)			
小学校学習指導要領第1学年及び第2学年 1 【知識及び技能】 (3) 我が国の言語文化に関する事項 ウ (ウ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って正しく丁寧に書くこと。			
教材・題材の価値			
本題材は、文字の外形をとらえ、正しく整えて書くことができるようにすることができる題材である。点画の組み合わせが正しくても、字形が整わないことがある。字形を整えて書くためには、文字の外形をとらえることが大切だということが分かる題材である。			
本単元における系統(横軸を当該学年での他領域とのつながり、縦軸を他学年での同領域のつながり)			
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">1年「文字のかたち」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2年「文字の形」 文字の外形を理解し、正しく整えて書くことができる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">4年「筆順と字形」</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> 2年「画の長さ」 画の長さの整え方を理解し、正しく整えて書くことができる。 </div> </div>			
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)			
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況			
調査内容	書けている	書けていない	
「日」を正しい形で書くことができる。	28人	3人	
「白」を正しい形で書くことができる。	26人	5人	
「王」を正しい形で書くことができる。	29人	2人	
■本単元の学習に関する意識の状況			
調査内容	◎(ある)	○(ない)	△
①—(1) 文字を書くことは好きですか。	10人	14人	7人
①—(2) それはなぜですか。	(肯定的な意見) ・新しい字を書くのが楽しい。 (否定的な意見) ・めんどくさい。・何回書いてもきれいに書けない。		
②書写の授業は好きですか。	12人	14人	5人
③書写の授業で学んだことを生活に生かしていますか。	10人	13人	8人
④字を書くときに気をつけていることは何ですか。	・とめ、はね、はらい ・書きじゅん		
⑤—(1) 字を書くときに困っていることはありますか。	5人	26人	
⑤—(2) それはどんなことですか。(1)であると答えた人)	・時間がかかる。・自分が書いた字が読めない。		
■考察 本学級の子どもたちは、書写の授業の時には丁寧に字を書く半面、他の教科のノートや宿題の漢字のノートの字はあまり丁寧に書いていない児童がいる。実際、意識調査の「③書写の授業で学んだことを生活に生かしていますか。」という問いでは、否定的な回答をした児童が8人いた。また、文字を書くことがあまり好きではない児童もいることが分かった。そのため、今回の書写の学習を通して、それぞれの文字の外形を理解し、他の字に生かして書けるような学習を行いたい。また、日頃から、文字を書く楽しさを感じてもらえるような取り組みが必要であると考え。			

3 指導に当たっての留意点

- 字形を整えるために、既習の「画の長さ」、「折れの向き」、「はらいの向き」などを意識させる。
- 書字活動には個人差があり、文字の外形はあくまでも形をとらえる一つの方法であるため、外形を絶対視することがないように注意する。
- 文字の外形をとらえやすくするために、視覚的な手立てを行う。

4 研究テーマ

書くことに意欲と喜びを持てる書写指導の在り方
 ～自ら気づき、高め、楽しんで日常生活に役立てる実践を求めて～

《関連の手立て》

- 子どもたちが自ら気づくために、画の長さによって外形の整っていない字を提示する。子どもたちが、外形が整うためには画の長さが大切だと自ら気づくようにする。(第1時)
- 日常生活に役立てることができる授業にするために、色々な外形のパターンを知り、他の字にも応用できるように練習する。(第2時)

5 本時の学習

- (1) 目標 整った文字の外形を理解する。
- (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	15分	<p>1 ちょこっとテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字形の確認テストを行う。 ◇「簡単だよ！」 <p>2 答え合わせ(「寺」の外形について考える。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外形が整っていない字と整っている字を掲示し、何に気を付けるとよいか、考えを出し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】 文字の形の違いを見つけよ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【めあて】 字に合った外形を見つけよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○「五」「百」「寺」を書く。 ○五(一画目が長い)、百(下が広い)、寺(縦長)を電子黒板で提示。 ○ゆのみ型と太鼓型(整った形)を提示。 ○文字の外形を囲みながら形を確認する。 ○「外形」という言葉の意味を知る。
展開	20分	<p>3 他の字の外形について考える。</p> <p>4 外形に着目して分けた字を発表する。</p> <p>プランA: みんな同じ答え 前で分ける、理由を説明する、型の名づけ</p> <p>プランB: 一部違う分類 多数派発表後、少数派の意見を聞く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【期待される学びの姿】 文字の外形を理解しようとしている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○カード(文字例と外形)を配布する。 ○黒板で分類する。 ○「手」「五」「目」「百」について、外形を全体で確認するとともに、親しみやすいように、外形の名前を一緒に考える。 ○「青」「太」「月」「書」の4つの字について、外形を考える。 ○分類が違う児童も着目点(長い画がどこか等)を褒める。
終末	10分	<p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【まとめ】 画の長さに気をつけると、その字に合った外形が分かる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを生かして字を書く。 ◇「外形に気をつけるとかっこいい字が書けた。」 <p>○振り返りをする。</p> <p>「わなしい」で振り返りを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「最初のテストより最後の方が上手く書けた。」 ◇「他の字にも生かしたい。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。 ○学習前の自分の字と比較することで、本時の学びの成果が見えるようにする。 【到達していない児童への手立て】 ○外形を教師が書き、それに合わせて書けるように個別指導を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【具体の評価規準】知① ○文字の外形を理解し、字に合った外形があることが分かっている。 (方法: ノート・発言)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に挙げる。

【板書計画】

<p>・文字によってととのって見える形があることが分かった。</p> <p>・ほかの文字でも生かしたい。</p>	<p>まとめ</p> <p>画の長さに気をつけると、その字に合った外形が分かる</p>		<p>めあ</p> <p>字に合った外形を見つけよう。</p>			
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;"> <p>太鼓型 の寺</p> <p>∴</p> <p>○ ↓ たいこの形</p> </td> <td style="width: 33%; text-align: center;"> <p>ゆのみ 型の寺</p> <p>∴</p> <p>× 長い ↓ ゆのみの形</p> </td> <td style="width: 33%; text-align: center;"> <p>コップ 型の寺</p> <p>∴</p> <p>× 上が長い ↓ コップの形</p> </td> </tr> </table>	<p>太鼓型 の寺</p> <p>∴</p> <p>○ ↓ たいこの形</p>	<p>ゆのみ 型の寺</p> <p>∴</p> <p>× 長い ↓ ゆのみの形</p>	<p>コップ 型の寺</p> <p>∴</p> <p>× 上が長い ↓ コップの形</p>	<p>文字の形</p>
<p>太鼓型 の寺</p> <p>∴</p> <p>○ ↓ たいこの形</p>	<p>ゆのみ 型の寺</p> <p>∴</p> <p>× 長い ↓ ゆのみの形</p>	<p>コップ 型の寺</p> <p>∴</p> <p>× 上が長い ↓ コップの形</p>				
		<p>まん中が広い たいこがた</p> <p>下が広い プリンがた</p> <p>たてが長い 黒ばんがた</p> <p>上が広い コップがた</p>				

【適用問題等の工夫】

<p>単元の終末(次時)では、これまで身に付けたことを生かして次の学習に取り組む</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○本時で学習した、外形がプリン型、コップ型、ゆのみ型、太鼓型の文字を練習する。 ○その他の外形である、黒板型(横が長い)、食パン型(縦と横の長さが同じくらい)の2つを確認し、練習する。